Ⅰ　実践

1　本校の人権教育の目標

人権教育という広い視野をもち，豊かな心情と正しい理解や判断力を養い，差別や偏見をもたない生徒を育成する。また，自分の大切さとともに，他の人も大切にしようとする思いが，具体的な態度や行動に現れるような実践的な態度の育成も目指す。

2　実践内容

（1）「思いやりの木」の実施

季節に合わせた掲示物用の画用紙に，生徒が見つけた他の生徒の良い行いや感謝の言葉を書き，教室内に掲示する。互いの良い点を認め合うことで良さを伝え合う活動を通して，他者理解の深化を図っていく。

（2）「心の賞賛状」の実施

教師が生徒の良いところを見つけ，その度表彰を行う。称賛されることを通して，自己有用感の向上と他者のために行動しようという意識を育むように努めている。今年度は全校８０％以上の生徒が賞賛状を受賞できるよう目指している。

（3）いじめストップフォーラムの実施（全校道徳として）

人権の尊重と深く関係のある「いじめ」に焦点を当て，学校全体でいじめについて考え，意見を深め合う集会を行った。また，各学級や各学年でいじめ防止に関するスローガンの考案を行うことを通していじめについて考え，議論する機会を作った。

（4）教職員の人権意識を高めるための校内研修の実施

週案の中に人権コラムを掲載し，人権教育に関する啓発を図った。また，人権教育に対する意識を確認するチェックリストや「人権教育実践事例集」などを活用して，教職員の人権意識の深化を図っている。更に，職員研修の中では，人権教育指導方法についても工夫が図れるように教職員間の意見交換を行う場の設定を行っている。

（5）Q-U テスト・ふれあいアンケートの実施

年２回の Q-U テストを実施し，結果分析を通して，学級経営をどうしていく必要があるのか考える機会を設けている。また，月１回のアンケートから「いじめ」の調査だけでなく，生徒一人一人の思いや悩みも確認することができた。

（6）道徳科と人権教材「めぐみ」を関連づけた授業

人権教材「めぐみ」を用いた道徳科の授業を行い，「拉致」という問題を通して「生命の大切さ」に気付き，自分たちに何ができるのかを考えさせる機会を設けた。

（7）あいさつ運動の実施

各部活動に加え，本年度は各委員会で校内での朝のあいさつ運動を実施し，自らあいさつのできる生徒の育成に努めている。また，１１月には生徒会本部が中心となり小木津駅でのあいさつ運動を行った。

【あいさつ運動の様子】

3　成果

継続的な活動により，生徒同士が積極的に他者の良いところを見つけ，互いに認め合おうという雰囲気が見られてきた。その結果，生徒自身，自分が認められているという自己有用感を高められているようになってきている。また，職員研修を通して，教職員の人権に関する意識を高めていくことにより，生徒との向き合い方も考え直すことができたように思われる。

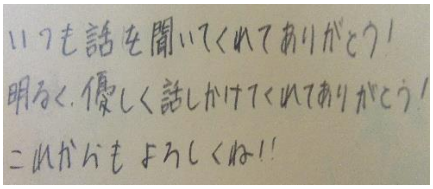
II　今後の課題

今年度，人権教育に関する新たな取り組みを行った結果，生徒の人権に関する意識の高まりが見られている。今後はこれらの新たな取り組みを継続していき，精選していくことで人権意識を高め，深化していけるようにしていきたい。また，各教科や特別活動との系統性を意識し，関連づけて指導していくことで更に人権教育の充実を図っていきたい。

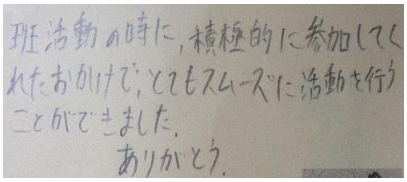
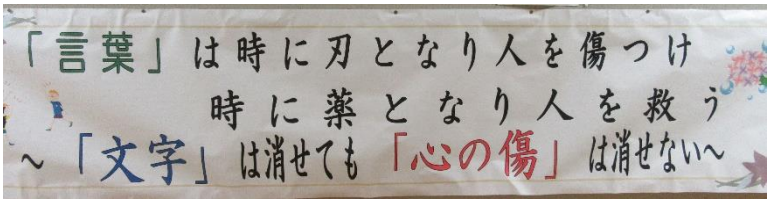
III　人権コーナーの設置の様子

【思いやりの木（各教室掲示）】

例１



例２



【いじめ防止のスローガン】